

アウフヘーベンしよう！

三 春

近ごろどうも心楽しくない。ムシャクシャする。

「むしゃくしゃ」を漢字にすれば「悶々」だと聞いてびっくりした。「悶々とする」とは、表面にださずに心のなかで思い悩むの意味ではなかったか。しかも性的な欲求を表すことも多いはずで……お門違いも甚だしい！

ヤフー知恵袋によれば、「むしゃくしゃ」は、「むさくさ」が変じたもので、「むさむさ」と「くさくさ」がくつついた言葉らしい。そして、「むさむさ」は仏教用語の「無作」が、「くさくさ」は「腐る」が元だそうで。

さて、この「むしゃくしゃ」をいかにして昇華しようか、ちょっと大げさに言ってみるなら、いかにアウフヘーベンしようか。

女は買い物で気を紛らわすとよくいわれる。私の場合は高価なドレスや豪華な調度とはもはや縁遠いし、散財を後悔して逆にストレスが増すに違いない。

そこで思いついたのが、憎まれ口を叩かない生き物と付き合うことだ。猫なら1匹いるにはいるが寝てばかりで役に立たない。シャカシャカと自転車漕いで向かった先は馬込の園芸店だ。トマトやパプリカの苗、黒土10kgを汗だくで持ち帰った。草花の旬は短い。野菜なら収穫までの成長過程を楽しめるうえに、食べる楽しみもある。

翌週は羽田のホームセンターで黒メダカと浮草を買い求めて睡蓮鉢に放った。「1匹160円、10匹なら1000円でお得！」に釣られて10匹。酸欠の不安がよぎる。

不安の中で翌日早くも1匹死亡、次々と埋葬ラッシュで（トマトの肥料に）、残り3匹になった。今が産卵時期だというのにたった3匹では覚束ない。白メダカ2匹を買い足した。

数日後、白メダカの腹部に卵らしき粒粒を発見！ 放置しておけば親に食べられてしまうそうだ。やむなく水槽を新規購入して成魚たちを移した。睡蓮鉢に残した卵たちがいつ孵化するかと覗き込む毎日が始まった。

以来、天気とにらめっこで、強風の日にはトマトの苗が倒れやしないかと寝ずの番、好天ならメダカの日光浴と日々忙しい。その甲斐あって（メダカを埋葬したおかげか）、トマトはいくつもの実をつけ、赤く熟すのを待つばかりとなった。

メダカの赤ちゃん？ それがねえ影も形も……、いや待てよ、Immほどのゴミのようなものが……動いてる！ これもアウフヘーベン?!

お節介な注釈：「アウフヘーベン（Aufheben）」とは、あるものを、そのものとしては否定しながら、更に高い段階で生かす、つまり、矛盾するものを更に高い段階で統一し解決すること、だそうで、日本語では「止揚」といいます。ドイツの哲学者ヘーゲルが弁証法の中で提唱した概念ですね。でも、このエッセイでは単なるカッコつけ。哲学的要素は殆ど(?)ありません。